

2020年度

大阪大学医学部医学科

学士編入学試験問題

【小論文】

問題冊子

(注 意)

- 1 問題冊子及び解答用紙は、試験開始の合図があるまで開いてはいけない。
- 2 受験番号は、解答冊子の表紙及び各解答用紙の受験番号欄に左詰めで、正確に記入すること。
- 3 問題冊子は、表紙を除き5枚ある。ただし、1枚目、4枚目及び5枚目は白紙である。
- 4 問題冊子又は解答冊子の落丁、印刷の不鮮明等がある場合は、解答前に申し出ること。
- 5 解答は、解答用紙の指定されたところに記入すること。枠からはみ出してはいけない。問題冊子に解答を書いても採点されません。
- 6 問題冊子の白紙は、適宜下書きに使用してよい。
- 7 問題冊子は、持ち帰ること。

【小論文】 1/2 ページ

以下の【資料】を読んで、【設問】に答えなさい。

【資料】

全身の筋肉量が減ったり筋力が低下したりした場合、サルコペニア（加齢性筋肉減少症）が考えられます。体が思うように動かしにくくなったり、転びやすくなったりするなど日常生活の動作に影響が出ます。サルコペニアは、国際的に病気と認められ、治療薬の開発が進んでいます。骨粗しょう症など骨との関連が指摘されていますが、加齢により筋肉が減るメカニズムについては十分にわかっていません。

診断では、筋力の状態を握力測定と歩行速度で確認します。どちらかが基準以下であれば、四肢の筋肉量の測定か体組成を検査します。そこでも基準以下であれば、サルコペニアと診断します。通常、筋肉量が減ると、体重も減ります。半年で体重が5%以上減ったり標準体重より20%以上減ったりした場合、さらに鑑別診断が必要です。（毎日新聞医療プレミアより一部改変）

(<https://mainichi.jp/premier/health/articles/20180823/med/00m/010/003000c?pid=14509>)

認知症高齢者の場合には、介護者の予測や考えを超えた行為、行動が多く、対応に振り回され、介護者の身体及び精神的なストレス（介護負担）が高くなることが考えられます。平成24年度の厚生労働省の調査でも、在宅で要介護認定を受けている被虐待高齢者の約7割の方が認知症自立度Ⅱ以上の方となっています。また、介護者が献身的な介護を続けていても、その疲れや先の見えない介護を誰にも相談できず、将来を悲観し、高齢者への殺害や無理心中に至るといった悲惨な事案も毎年20件以上発生しています。

認知症の高齢者の場合、判断能力が低下し、悪質な訪問販売等による消費者被害にあいやすくなっています。国民生活センターによると、60歳以上の認知症の人の消費者トラブルに関する相談は、平成25年度には、1万1,499件が寄せられ、年々増加しています。相談内容は、健康食品の送りつけ商法や住宅リフォーム工事等多岐にわたります。（公益財団法人長寿科学振興財団のホームページより一部改変）

(<https://www.tyojyu.or.jp/net/byouki/ninchishou/shakai-mondai.html>)

【設問】

サルコペニアや認知症など、老化・あるいはそれに伴う疾患は、超高齢化社会に突入した日本では、医学的にも社会的にも重要なテーマとなっています。

1. 老化に伴い増加すると予測されるサルコペニアや認知症に対する予防あるいは治療となる医学的（科学的）アプローチについて、考えるところを述べなさい。（句読点を含めて 600 字以内）
2. サルコペニアや認知症の患者の増加は、社会的にはどのような問題を引き起こすか、あなたの考えを述べなさい。さらに、それに対してどのように支援できるか、あるいはそれをどのように克服できるかについて、あなたの考えを述べなさい。（句読点を含めて 800 字以内）